



近中通信

2020年1月
第84号



かかりつけ医と
近中を結ぶ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます



新年明けましておめでとうございます。

近年、過労死が度々マスコミで取り上げられて来ました。厚生労働省は、昨年「医師の働き方改革の推進に関する検討会」を立ち上げました。今まで、医師の勤務時間に対する配慮はほとんどなされてこなかったといえます。12時が過ぎても昼食は抜いて外来診療を継続、夜間に緊急手術があっても翌朝は通常通り勤務するのは当たり前でした。タイムカードはあるものの、目的は超過勤務の調査よりも、遅刻防止であったような気がします。ようやく医師の勤務環境改善に目が向けられることになります。しかし診療科、地域性、経営形態など、数えきれないほどの変数があり、一律の規約で改善するのでしょうか。それでも、放置されるよりは余程マシだろうと思われます。

国のがん対策は、検診の普及、たばこ対策などから始まり、標準治療の開発・普及、がんゲノム医療などの多岐に渡り、現在はがん患者の就労支援、緩和ケア、学校におけるがん教育が

取り上げられています。昨年後半には、1滴の血液で早期がんを発見、という検査が2020年にも一部実現すると報告されました。従来の腫瘍マーカーの検出感度が向上したのではなく、マイクロRNAを測定する方法です。マイクロRNAは、20から25塩基からなる微小RNAで、遺伝子の発現を調節する役割を担っているとされます。それぞれのがんで特有のマイクロRNAが産生されているとされ、がんの診断にも治療にも応用できることが期待されています。AIの医療界への導入も始まっています。

医学の進歩は休むことなく進むようですが、医師の労働環境の改善も並行して進んで欲しいものです。

本年もよろしく願い申し上げます

病院長 有田 憲生

心電図って難しい！？

循環器内科医員 林 濟亨



● 心電図クイズ

突然ですが、ここで心電図クイズです。

【図1】の所見はいかがでしょうか。



【図1】

P波がはっきりせず、RR間隔不整であり、基線が揺れていることから、答えは『心房細動』とわかります。では、【図2】の所見はどうでしょう。



【図2】

RR間隔は整で基線の揺れもほぼ認められませんが、P波がハッキリしません。実は、これらの心電図は同じ症例であり、【図1】の数年後に【図2】の所見となりました。答えは、『慢性心房細動+完全房室ブロック』です。

● 解説

正常心電図で心房筋の興奮はP波という小さな波として記録されますが、心房細動では代わりに

ギザギザのf波が認められます。機序はまだ不明ですが、心房細動の慢性化に伴いf波がより細かいギザギザ波形に変化し、f波が見えにくくなる場合があります。慢性心房細動によりP波とf波が消失し、完全房室ブロックにより規則正しく補充調律が出現しているのが【図2】の答えでした。一見、洞調律に見えますが、心原性脳塞栓症のリスクを考え、やはり抗凝固療法が必要となります。

● 心電図検定を受けてみませんか？

医療従事者にとって心電図判読はとても重要ですが、熟練した医師でも読み間違えることがあり、正確な判読には深い洞察力と多くの経験、訓練が求められます。苦手意識を克服するために、当院職員（初期研修医、看護師、臨床検査技師）で相互学習を行い、心電図検定（日本不整脈心電学会主催）を受けてみました。

結果、第5回（2019年度）心電図検定は受験者10名（1級：1名、2級：6名、3級：3名）全員が合格することができました。

「心電図って難しい！」から「心電図が読める！」という喜びに変わり、今回得た心電図の知識がこれからも多くの患者様に役立つことを願っています。

近中糖尿病デー2019

主任栄養士 門 敦子

● 世界糖尿病デー

11月14日の夜、日本中の名所がブルーにライトアップされました。

世界糖尿病デーが制定されて12年が経ち、世界の各所でさまざまなイベントが開催されることによって一般の方々にも少しずつ糖尿病をはじめとする生活習慣病に対する意識が高まってきたように思います。

● 近中糖尿病デーを企画・開催

近畿中央病院でも、11月13日に内分泌内科医、日本糖尿病療養指導士を中心とした糖尿病小委員会（糖尿病チーム）が「近中糖尿病デー」と題し、糖尿病を強く疑う方とそのご家族を対象に、糖尿病をもっと知っていただくためのイベントを企画・開催しました。事前の院内掲示ポスターの他に、ホームページからも案内をしたことで今年は約150名の参加がありました。

● 当日の会場では

当日は4つのコーナーにわかれ、①血糖測定体

験には医師・看護師が、②簡易頸動脈エコー体験には臨床検査技師が、③体脂肪・筋力測定には理学療法士・健康運動指導士が、④血糖関連機能性食品紹介には管理栄養士が参加者をお迎えしました。参加者の3人に2人は実際に血糖値が高いと言われたことがあるようで、各コーナーではイベントの体験だけでなく、血糖値や生活習慣病に関する日頃の疑問に各スタッフが相談に応じていたことからどのコーナーも大変好評で、毎年楽しみにしていると言われる方も多く見られました。また、参加者の中からアンケートにご協力いただいた約9割の方は生活習慣病が気になると答え、機能性食品紹介のコーナーで今回紹介した市販品に、ほとんどの方が興味を持たれていました。今後の生活改善が食生活で手軽に出来るならうれしい等のご意見をいただき、商品をスマートフォンで写真に撮って帰られるなど実際に購入をお考えの方が多くおられました。

近中糖尿病デーは毎年11月に開催予定です。糖尿病チームのスタッフがみなさまのご参加をお待ちしております。



①血糖測定体験



③体脂肪・筋力測定



②簡易頸動脈エコー体験



④血糖関連機能性食品紹介

第12回登録医総会・第23回地域医療連携懇話会を終えて

令和元年11月16日（土）に第12回登録医総会および第23回地域医療連携懇話会を開催いたしました。伊丹市、尼崎市、宝塚市、西宮市の先生方35名、院内職員37名（医師21名、看護師5名、事務員11名）を加えた総勢72名の参加がありました。

懇話会では伊丹市医師会 常岡 豊 会長、尼崎市医師会 八田 昌樹 副会長、宝塚市医師会 栗田 義博 会長、伊丹市歯科医師会 飯田 良

治 副会長にご挨拶いただきました。当院からトピックスとして「口腔癌～早期発見のために～」(歯科医長 石井 庄一郎)をご紹介いたしました。懇話会後の懇親会でも、多くの先生方にご参加いただき意見交換を行いました。

盛況な会が行えましたことに厚く御礼申し上げます。今後とも、地域連携の体制整備に努めて参りますので、一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携懇話会の様子



懇親会の様子

